

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2297200293		
法人名	(株)アイケア		
事業所名	グループホームあいの街浜北		
所在地	静岡県浜松市浜北区於呂2406-1		
自己評価作成日	平成26年10月1日	評価結果市町村受理日	平成26年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2297200293-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2297200293-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成23年10月23日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

御利用者様一人ひとりの今ある生活の中で何が一番大切で、そして何を一番求めているのかを言葉の中から、日々の行動から読み取り、御利用者を取り巻くご家族、主治医、施設職員等すべての者と連携を密にし、安心した穏やかな生活が営める様援助しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

非常勤職員を含め定着率が高いため利用者の状態観察への対応に秀でており、入居前は歩行状態が悪かったり生活習慣が良くなかった利用者も、穏やかに笑顔のある毎日を送っています。毎月お抹茶会があり、師範が抹茶を点てていて、運営推進会議で地元住民対象として提案した「あいの街浜北フェスタ」では、一般来訪者に手作りおやつとともに師範のお点前が披露され、まるで「あいの街浜北の人」になったかのように嬉しいひと時を過ごしました。また自治会長の進言から、地域密着型の利用案内をおこなう介護相談コーナーをフェスタ内に開設し、また1つ地域への扉が開くことにつながりました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念である「笑顔のある暮らし」傾聴・受容・寄り添い共に生活をする場への提供は基より、医療、家族と取り巻くすべての連携を密にする様心掛けています。	「疑似家族」として自宅のように寛げるよう、一人ひとりの職員が心がけているため、利用者が忌憚なく笑顔で会話できています。居心地よく過ごせていることが利用者の様子からも覗えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会、地域向けのイベントや、運営推進会議(2ヶ月1回)の開催、地域防災訓練への参加、又恒例となったお茶の先生による「お抹茶」の会は好評である。	幼稚園、小学校、中学校も近くにあり、中学生の体験学習を受入れた折には、手品や歌を披露してもらえました。広報紙は届いていますが、自治会の役には係わっていません。	地域向けイベントやお抹茶の会と、積極的な関わりがみられます。さらに溝掃除といった生活に根差したつきあいも進むことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉ボランティア受け入れや、地域向けイベントにて包括支援センターの方による「物忘れ、認知症」の違いの寸劇を行って頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催を行い利用状況、活動状況、事故・ヒヤリハット等の報告を行い、又地域行事等意見交換も行っている。話し合いの中で出た問題点を地域イベントにて包括の方々寸劇にて演じて頂いた。	介護相談を把握する貴重な機会となっています。また地域住民を対象とした「あいの街浜北フェスタ」企画では、地域包括支援センターや自治会長の大きいな協力を得ていて、信頼が育まれていることが伝わります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加依頼、会議議事録の提出、又浜松介護相談員の訪問をお願いいただいております。	運営推進会議の議事録や次回開催の案内を手渡ししています。また、連絡会にも管理者が参加していて、普段から顔の見える関係ができていますので、何かあればすぐ相談できる連携がとれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束0宣言」を行い、拘束とは何かとミーティング等にて話し合いを行い実践を行っております。	点滴加療では一時的に固定しなければならぬこともあります。一時性、緊急性、代替性の基準に照らして適切な対応をおこなっています。収集癖のある利用者には特に禁止することなく、「私が使うので、紙を貸してください」と伝え、後から回収しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時の全身観察、表情や行動面の変化の観察を行い、問題点への早期把握を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護への研修に参加し、必要時には活用できるよう努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は出来るだけご本人を交え契約への説明をさせて頂いております。又法改正に伴う改定等の連絡は文章にてご説明をさせて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者からのふとした言葉や、御利用者様への面会時、家族会にてご意見を頂いたり、又職員からの御利用者様支援に関する要望等も快く受け入れて頂いております。	家族会にはほぼ全家族が参加しており、家族アンケートの内容も良好です。グループホームへの郵便物住所について家族から相談を受けて変更した例があり、できることは速やかに改善しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	御利用者様重度化に伴い常に意見を聞くようにしております。又問題点はミーティングを設け意見交換ののち決定を行っております。	全体会議やユニット会議を通じて、嚥下に依りて食事形態、移乗方法を変更しています。個別面談は設けていませんが、職種に関係なく、どの職員も建設的な意見を提案できています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の持っているカラーを大切に、人が人を育てられる環境作りを行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修への参加をはじめ、外部研修への参加をすすめております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設セクション会議の参加にて各施設長との意見交換や、施設研修の参加にて職員間の交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現在の身体、精神状態をご家族、職員とで共有しご本人の立場に立ち穏やかに暮らせる環境作りに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用されるまでのご様子やこれからの関わりを含め御利用者様もご家族も安心できる関係を構築しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全体的なお話を伺いその中で今その方らしい生活が営める支援を大切に、又将来を見据えたサービスへの提供もさせて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的雰囲気作りに心掛け、お一人お一人に合わせた援助に心掛けております。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御利用者様が呟かれた些細なことや、問題点等をご相談し共にご本人の立場に立ち援助できる関係を築いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親せき関係の方の面会や、外出、外食等へのお勧めさせて頂いております。又ご近所の方の面会もご家族様の承諾を受けさせて頂いております。	面会者の顔を忘れていたことあるため、利用者が不穏にならないよう職員がフォローしています。家族以外の面会については事前に確認しています。自宅でおこなっていたブラウスの裁縫や硬貨を使った手芸が継続されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様の日々の精神状態を把握し、レク等個別にて援助を行うか、又全体での援助を行うかを職員間にて決めて行動させて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要以上な関係の構築は行っておりませんが、自然な関係での相談支援はさせて頂いております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にご本人の現状への満足度や今後への期待や希望を引き出せるよう心掛けてコミュニケーションをとっております。意思表示が困難な方にはご本人の表情、反応などを確認し、ご家族にも確認しながらご意向に添う様勤めております。	「自宅に帰りたい」と感情が高ぶる場合には、家族の協力を仰ぎ声を聴いてもらうことで落ち着いてゆっくり眠ることができた例もあります。利用者の意向を確認できた場合には介護記録に記載し、職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時のアセスメント・入居後の会話の中から必要な情報を記録に残し職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の日々の日課、会話を記録に残すと共に、毎日の申し送り、定期ミーティングにてご利用者様の心身の状態、生活自立度を職員間で確認し把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様個々に担当職員を配置し状況把握に努め、定期、随時カンファレンスを行い必要に応じて計画を変更しております。	担当職員が家族との連絡役となり、また利用者の状態を主になって把握しています。またカンファレンスや日々の申し送りにより職員間でも共有しています。利用者個々の心身や摂食の状態が計画に反映されていることは書面から視認されました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での気づきや実践の結果を、毎日2回の申し送り、申し送りノートで検討、評価し必要に応じてカンファレンスを開き計画に反映させております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時ご本人、ご家族と話し合い合意の下に迅速に柔軟なニーズへの対応ができる様心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様を受け入れ可能な設備を持つ公共・商業施設、飲食店の把握利用の実践を行っています。イベントを主催し地域住民、ボランティア、保育園の子供たちとの交流、中学校の福祉体験受け入れ等地域との交流を行っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医、ご本人ご家族の同意を得た医師による月1回の定期往診の他に、随時の往診、受診にも対応して頂いています。定期・随時に医師への状況報告を行っております。	提携医と、従来からのかかりつけ医の2つの病院にて往診がおこなわれています。通院が必要な1名の利用者は、家族の支援により定期受診が叶っています。歯科医師の訪問診療も随時あり、抜歯処置や義歯の調整が受けられます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の体調に変化が見られた時には、速やかに看護職員または責任者に報告し、必要に応じて随時医師に状況を報告し対応に関する指示を頂いております。また往診時には看護職または責任者が立ち会い文書及び口頭での状況説明を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入居時から現在の様子、処方薬、既往歴等のサマリーを提供しております。入院中には面会に伺い病院関係者との情報交換を行い退院に向けMSW等との話し合いの場を持っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「家族」「急変時」「緊急時」への対応の取り決めを行っております。H25年12月の家族会において、責任者、看護職から高齢者の急変についての説明を行い、各ご家族の終末期の意向の確認を行いました。看取りの実績はありませんが、医療処置の無い状態であれば対応したいと考えております。	家族会を通じて事前に意向を把握しています。余命何日という宣告があったときには家族に泊まり込んでもらうとの体制ですが、開設以降終末期の実績はありません。往診の医師からの指導のもと、日頃の連携ができてくるものの、いざという時のために準備を進めています。	準備のなかに職員のメンタル面へのケアフォローをどうするかについて加わることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制・役割分担を表にし、定期的に訓練し確認しております。消防署の行う救急救命講習への参加、急変時の対応、応急処置を社内研修で定期的に行い知識と実践力の習得に努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行うと共に運営推進会議において地域での避難方法、避難場所の確認、災害弱者への協力をお願いしています。	昨年からの取組みとして地域防災訓練には職員が1名参加しており、炊き出し体験もありました。地域住民が大勢集うこともあって利用者は参加していません。事業所内では消防署職員の立会いのもと、避難誘導の時間を計測することもあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室、個浴の提供をさせて頂き、居室ではご自分なりの空間を作って頂いています。生活の実感の継続とし、時にはっきりとそして穏やかに心のうちに添った言葉かけをさせて頂いております。	急に泣き出すなど感情の吐露が激しくみられた場合には、状況に応じた言葉かけをしています。また、利用者と会話する場をかえることにより話しやすい環境になるようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理念の一環である「声にならない言葉に耳を傾け」傾聴と受容に心がけ、自己決定の出来る待つ介護を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の体調、精神面での変化を把握し、無理の無いペースでの支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問理美容の方へ依頼、又衣替えの時期には、季節に添った服装が出来るようご家族様に依頼を行いその人らしさの継続に心掛けております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備として、嚥下体操、手洗いうがい等を毎食行い、食事中はBGMを流しゆったりとした食事環境作りを行っている。3月には味噌、6月には梅ジュースと御利用者様と保存食作りも行っている。	本年度は流しそうめんを新しく企画され、わいわいがやがやと大好評で何回かおこなわれました。訪問調査時にはお好み焼きが目前で焼かれ、香ばしい匂いが室内に漂って食欲を高めていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外にも10時・3時の水分補給や嚥下状態に合わせたお茶ゼリー トロミの強弱を行い提供している。又食事形態も超キザミ キザミ 一口大と手を加え提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは習慣になっていて、ご自身でケアをされる方、介助の必要とされる方もまずは歯ブラシを持っていただいている。全介助の方はスポンジブラシにてケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄への確認を取っております。昼夜時間を決めおむつ交換、夜間の定期誘導、排便へのコントロールにも注意を図っております。	オムツ、紙パンツ、布パンツ、それぞれ着用の利用者がいます。職員から声掛けすることなく、利用者の動向を見極めて介助するようにしています。ふらつきがあったり、排泄のコントロールが困難な利用者には職員が同行しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活の面から、寒天 サツマイモ ヨーグルト等の提供、歩け×2運動の導入、肛門周囲、お腹のマッサージを取り入れ予防への取り組みを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の個浴を提供しています。入浴の準備は御利用者様と一緒に行っております。朝のバイタル測定を基準に再検を行い入浴の管理を行っています。	利用者の意向により、同性介助を提供しています。脱衣所はやや狭いものの工夫がみられ、また3方向から浴槽に入ることができ安全性の高さがあります。蜜柑湯、菖蒲湯、お茶の湯といった変わり湯もおこなっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	プライバシーの保てる個室の提供、週1回のシーツ交換や季節に応じたお布団の調整をおこなっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時医師からの注意事項を職員間で周知を行っています。朝・昼・夕と配薬箱を決めセット 服薬共に職員によるダブルチェックを行い誤薬への防止に心掛けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出レク・新聞・週刊誌・広告は基より、洗濯物の始末、食器を洗っていただいたり、毎朝ご自身の部屋掃除を行って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事(桜 紅葉、イチゴ狩り ブドウ狩り)月1回程度の外出レクや、面会時なるべくご家族と外出の機会を作れる様な働きかけをおこなっています。	年間行事計画をもとに地域特性を考慮した季節感ある外出がおこなわれ、いちご狩りやぶどう狩りは恒例となっています。「もう桜が咲くかな～」と利用者の興味を高めるといった事前のアプローチも欠かしません。近隣は交通量も多いため、敷地内を散歩しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	申し訳ありませんが、金銭の管理は基本施設側にて行わせて頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状 暑中見舞いをご家族あてに出させて頂いてます、お返事を返して頂けた御利用者様はご家族とのつながりに喜ぶ姿が見られました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんで作成された壁画や、季節の写真、レクで制作された作品を、ご自分のお部屋、フロアに飾り楽しまれています。施設全体が天竜の木材を使用し温かみのある環境作りを提供しております。	共用空間には木目の柱、木材の床板を使用しているためより広く、木のぬくもりを感じる造りになっています。施設臭には特に注意していることもあり、トイレを含めて十分に掃除しているため、調査時にも臭いを感じることはありませんでした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースに冬の間は炬燵を、又テレビ前にはソファを置き自由な時間を過ごして頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室にて提供させて頂いております。家で使用していた鏡やタンス、婦人会で作成した置物、缶に入ったお裁縫道具等を傍に置かれ個人の生活環境の継続を心掛けております。	布団敷き、ベット、どちらでも対応できます。居室の一角に畳を敷き、テーブルで寛ぐ部屋もありました。お地藏様を飾り、お供えを日課にしている利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内共有スペースの表示を少なくし、なるべくご自身で把握してご利用頂けるよう支援をしております。「おトイレはここよね」と戸惑いながらも職員に尋ねられる事も多くあります。		